

学 会 記 事

第 5 回研究報告全国大会

第 5 回研究報告全国大会は1984年11月10日、11日の 2 日間にわたり、早稲田大学小野講堂で行われた。共通論題は「E C と人権」であった。大会は予定通り自由論題の報告から始まり、荒川会員の司会のもとに佐々木昇会員の報告が最初に行われた。第 1 日目の最後に E C 委員会駐日代表部のジル・アヌイ氏による“EC-Japan Relations at a Turning Point”と題する特別講演があった。貿易を中心とした日本・E C 関係について、同氏の日本における体験をベースに、率直な感想を表明されたものであり、興味深いものであった。なお、同氏はその後ブリュッセルの E C 委員会本部に転出された。本紙をお借りして同氏のご健闘とご健康をお祈り申し上げます。

第 2 日目は鈴木会員の報告に続き共通論題に入り、報告の後、討論が行われた。E C における基本権保護の法源、各法源の相互の関係などをめぐって大変興味深い議論が展開された。また人権擁護を目指した南ア制裁行動の困難さを、国連、E C、南ア、南ア周辺国などの観点から指摘された討論も示唆深いものがあった。

共通論題の司会者として予定されていた中原喜一郎会員はご病気で欠席されたため山手治之会員が平良会員と共に司会された。

今号は早々に原稿を提出していただいた方にはご迷惑をおかけ致しましたが、執筆予定者全員に原稿をご提出いただき、深く感謝申し上げます。また今号から、理事の方お一人から必ずご寄稿を特にお願ひすることになり、たまたまアンケートで執筆希望された南義清会員にお願ひしたところ快諾され、ご寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

《 プ ロ グ ラ ム 》

第 1 日 (11月10日)

午 前 の 部

〈自由論題〉

司会者 荒川 弘 (成城大学)

(1) 西ドイツ系多国籍企業の直接投資構造 佐々木昇 (愛媛大学)

(2) 労働時間短縮をめぐる経済問題

——西ドイツの週労働35時間要求に関して—— 真継 隆 (名古屋大学)

午後 の 部

司会者 細谷千博 (国際大学)

(3) 欧州政治協力の活動について

—Bulletin を中心にした検討—

高瀬幹雄 (一橋大学大学院)

司会者 島野卓爾 (学習院大学)

(4) EC並み農業を考える

遠藤浩一 (日本大学)

<特別講演>

EC-Japan Relations at a Turning Point

ジル・アヌイ (駐日EC委員会代表部広報参事官)

第2日 (11月11日)

午前 の 部

<自由論題>

司会者 小原喜雄 (神戸大学)

(5) COMECON・EC 協力協定交渉をめぐる 鈴木輝二 (香川大学)

<共通論題> (ECと人権)

司会者 平 良 (慶應義塾大学)

山手治之 (立命館大学)

(1) 欧州人権条約をめぐるEC裁判所の「ガイドライン」方式

—EC委員会の「加入」方式との比較— 庄司克宏 (慶應義塾大学大学院)

午後 の 部

(2) 欧州共同体と基本権保護の展開

田村悦一 (立命館大学)

(3) 南アフリカ・アパルトヘイトとEC企業行動指針の意義

—アメリカ、日本との比較をふまえて— 佐々木建 (大阪市立大学)

(4) 全体討論

(なお、所属は学会報告当日のもの)

海外の学会および大学との交流

日本EC学会では、海外のEC関連学会および大学との間で相互の交流を深めるために、研究大会等の情報および機関誌の交換を行なっています。下記のリストは、『日本EC学会年報』をお送りし、交流の回答をいただいた諸機関です。会員皆様のご留学、ご出張の際にお役立て下さい。先方から研究大会の案内や機関誌が送られてきておりますので、必要な方は事務局までご連絡下さい。